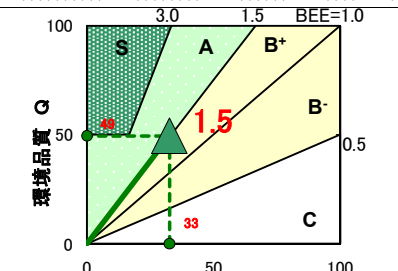
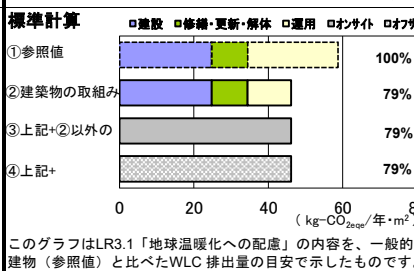
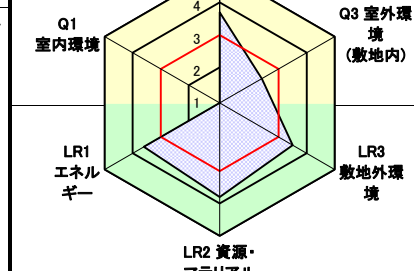


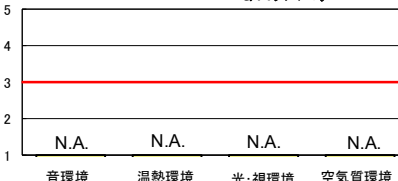
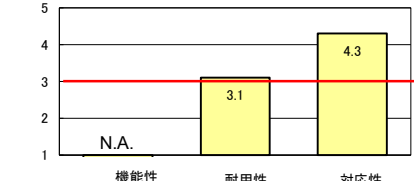
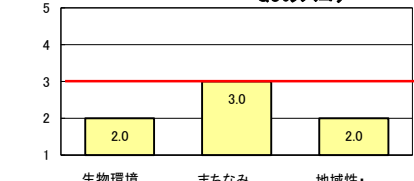

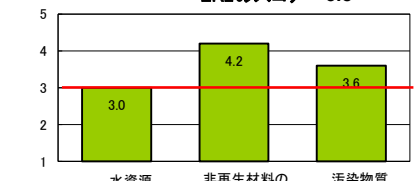
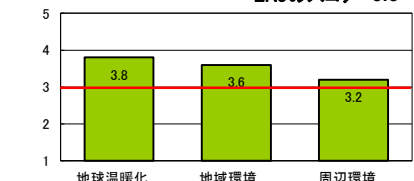
CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.22

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	LOGIFRONT名古屋みなと	階数	地上4F
建設地	愛知県名古屋港区当知2丁目1301番	構造	S造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	185 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2025年11月 竣工	評価の実施日	2025年10月31日
敷地面積	10,556 m ²	作成者	日本国土開発株式会社名古屋支店一級建築士事務所 米岡 真奈美
建築面積	5,661 m ²	確認日	2025年10月31日
延床面積	21,483 m ²	確認者	日本国土開発株式会社名古屋支店一級建築士事務所 米岡 真奈美

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ホールライフカーボン(温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.5</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p> 	<p>標準計算</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+</p> 	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質		
Q のスコア = 2.9		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア= 0.0</p> 	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア= 3.7</p> 	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>Q3のスコア= 2.4</p> 
LR 環境負荷低減性		
LR のスコア = 3.6		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア= 3.6</p> 	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア= 3.8</p> 	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア= 3.5</p> 

3 設計上の配慮事項		
総合		
建物外皮の負荷抑制でレベル5を獲得、リサイクル材を使用するなどし、環境に配慮		
その他 特になし		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
省略	耐用年数の長い外壁建材や配管材を使用するなどし、環境に配慮	自生種の保全に配慮した緑地づくり
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
BPlm=0.71 BEIm=0.48	躯体材料以外にリサイクル材を使用し、環境に配慮	光害チェックリストの過半数を満たし、広告物照明は無し

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■ 「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。
■ 評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2024年版
LOGIFRONT名古屋みなと

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2024年版

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.22

スコアシート		竣工段階				
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						2.9
Q1 室内環境						-
1 音環境		-	-		-	-
1.1 室内騒音レベル	-	-	-		-	-
1.2 遮音	-	-	-		-	-
1 開口部遮音性能	-	-	-		-	-
2 界壁遮音性能	-	-	-		-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	-		-		-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	-		-		-	-
1.3 吸音	-	-	-		-	-
2 温熱環境		-	-		-	-
2.1 室温制御	-	-	-		-	-
1 室温	-	-	-		-	-
2 外皮性能	-	-	-		-	-
3 ゾーン別制御性	-	-	-		-	-
2.2 湿度制御	-	-	-		-	-
2.3 空調方式	-	-	-		-	-
3 光・視環境		-	-		-	-
3.1 昼光利用	-	-	-		-	-
1 昼光率	-	-	-		-	-
2 方位別開口	-		-		-	-
3 昼光利用設備	-		-		-	-
3.2 グレア対策	-	-	-		-	-
1 昼光制御	-	-	-		-	-
3.3 照度	-	-	-		-	-
3.4 照明制御	-	-	-		-	-
4 空気質環境		-	-		-	-
4.1 発生源対策	-	-	-		-	-
1 化学汚染物質	-	-	-		-	-
4.2 換気	-	-	-		-	-
1 換気量	-	-	-		-	-
2 自然換気性能	-	-	-		-	-
3 取り入れ外気への配慮	-	-	-		-	-
4.3 運用管理	-	-	-		-	-
1 CO ₂ の監視	-	-	-		-	-
2 喫煙の制御	-	-	-		-	-
Q2 サービス性能		-	0.43	-	-	3.7
1 機能性		-	-		-	-
1.1 機能性・使いやすさ	-	-	-		-	-
1 広さ・収納性	-	-	-		-	-
2 高度情報通信設備対応	-	-	-		-	-
3 バリアフリー計画	-	-	-		-	-
1.2 心理性・快適性	-	-	-		-	-
1 広さ感・景観	-	-	-		-	-
2 リフレッシュスペース	-	-	-		-	-
3 内装計画	-	-	-		-	-
1.3 維持管理	-	-	-		-	-
1 維持管理に配慮した設計	-	-	-		-	-
2 維持管理用機能の確保	-	-	-		-	-
2 耐用性・信頼性		3.1	0.50		-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振	-	3.0	0.50		-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	-	3.0	0.80		-	-
2 免震・制震・制振性能	-	3.0	0.20		-	-
2.2 部品・部材の耐用年数	-	3.9	0.30		-	-
1 躯体材料の耐用年数	-	3.0	0.20		-	-
2 外壁仕上材の補修必要間隔	屋根仕上材の耐用年数40年	5.0	0.20		-	-
3 主要内装仕上材の更新必要間隔	耐用年数 床:15年、壁:15年、天井:30年	4.0	0.10		-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	-	3.0	0.10		-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要用途上位3種、2種以上B仕様、Eは不使用	5.0	0.20		-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔	-	3.0	0.20		-	-
2.4 信頼性	-	2.2	0.20		-	-
1 空調・換気設備	-	3.0	0.20		-	-
2 給排水・衛生設備	-	2.0	0.20		-	-
3 電気設備	-	1.0	0.20		-	-
4 機械・配管支持方法	-	3.0	0.20		-	-
5 通信・情報設備	-	2.0	0.20		-	-

3 対応性・更新性			4.3	0.50		-	4.3
3.1 空間のゆとり	1 階高のゆとり	階高3.9m以上	5.0	0.30		-	
	2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.1以下	5.0	0.40		-	
	3.2 荷重のゆとり	主な積載荷重4500N/m ² 以上	5.0	0.30		-	
	3.3 設備の更新性		3.4	0.40		-	
	1 空調配管の更新性	—	3.0	0.20		-	
	2 給排水管の更新性	—	3.0	0.20		-	
	3 電気配線の更新性	仕上げ材を痛めることなく電気配線の更新・修繕ができる	5.0	0.10		-	
	4 通信配線の更新性	仕上げ材を痛めることなく通信配線の更新・修繕ができる	5.0	0.10		-	
	5 設備機器の更新性	—	3.0	0.20		-	
	6 バックアップスペースの確保	—	3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			—	0.57	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出		—	2.0	0.30		-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		—	3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30		-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	—		2.0	0.50		-	
	—		2.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性			—	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー			—	0.40	-	-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.71	5.0	0.20		-	5.0
2 自然エネルギー利用(直接利用)		—	3.0	0.10		-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI=0.48	4.0	0.50		-	4.0
4 効率的運用に向けた取組み	集合住宅以外の評価		4.0	-		-	
	集合住宅の評価			-		-	
	—		1.8	0.20		-	1.8
	集合住宅以外の評価		1.8	1.00		-	
	4.1 モニタリング	—	2.0	0.40		-	
	4.2 運用管理体制	—	1.0	0.40		-	
	4.3 非化石エネルギーの導入の拡大	—	3.0	0.10		-	
	4.4 コミッショニングの推進	—	3.0	0.10		-	
	集合住宅の評価			-		-	
	4.1 モニタリング	—		-		-	
	4.2 運用管理体制	—		-		-	
LR2 資源・マテリアル			—	0.30	-	-	3.8
1 水資源保護			3.0	0.20		-	3.0
1.1 節水	—		3.0	0.40		-	
	—		3.0	0.60		-	
	—		3.0	0.70		-	
	—		3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.2	0.60		-	4.2
2.1 材料使用量の削減	—		2.0	0.11		-	
	—		3.0	0.22		-	
	構造耐利器上主要な部分にリサイクル資材を用いている		5.0	0.22		-	
	リサイクル資材を3品目以上用いている		5.0	0.22		-	
	—		-	-		-	
	評価する取組を2ポイント以上実施		5.0	0.22		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.20		-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用	建具塗料、壁塗料		4.0	0.30		-	
	—		3.5	0.70		-	
	—		-	-		-	
	ODP=0.01未満かつ、GWPが低い発泡剤を用いた断熱材を使用		4.0	0.50		-	
3.2 フロン・ハロンの回避	—		3.0	0.50		-	
	—		3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境			—	0.30	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2換算値が79%	3.8	0.33		-	3.8
2 地域環境への配慮			3.6	0.33		-	3.6
2.1 大気汚染防止	燃焼機器を使用していない		5.0	0.25		-	
	—		3.0	0.50		-	
	—		3.5	0.25		-	
	—		3.0	0.25		-	
	—		3.0	0.25		-	
	—		3.0	0.25		-	
	—		3.0	0.25		-	
	—		3.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33		-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止	—		3.0	0.40		-	
	—		3.0	1.00		-	
	—		-	-		-	
	—		-	-		-	
	—		3.0	0.40		-	
	—		3.0	0.70		-	
	—		3.0	0.30		-	
	—		4.4	0.20		-	
	—		5.0	0.70		-	
	—		3.0	0.30		-	

CASBEE-建築(新築)2024年版

LOGIFRONT名古屋みなと

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	2.0	2.0	○	○	-	-	-	○	-	○					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	6.0		○	-	-	-	○	-	-	○	-	○	○	○	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	5.0		-	○	○	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	○	-	-	-								
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-						
2.4.3 電気設備	-	-	-	-	-	-	-	-							
2.4.5 通信・情報設備	1.0		-	-	○	-	-	-							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	6.0		-	-	2.0	-	1.0	1.0	1.0	-	1.0	-	-		
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	-	-	-	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0		-	-	-	-	-	1.0	-	-					
3.2 敷地内温熱環境の向上	4.0		-	1.0	-	1.0	-	-	-	-	2.0				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用(直接利用)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4.1.4 コミッショニングの推進	-		○	-	-	-	-								
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-					
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	2.0	-	-								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	-	○	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	2.0														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	6.0		1.0	-	-	3.0	-	-	-	2.0	-	-			
2.3.3 交通負荷抑制	3.0		1.0	-	1.0	1.0	-	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	4.0		1.0	1.0	1.0	1.0		-	-						
3.2.2 砂塵の抑制	2.0		2.0	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0		2.0	2.0											
主な指標															
Q1 室内環境															
2.1.3 外皮性能															
窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) -															
U値(W/m2K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 -															
住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - ηAC - ηAH -															
昼光率 0.0%															
自然換気有効開口面積率 0.0%															
3.1.1 昼光率															
4.2.2 自然換気性能															
Q2 サービス性能															
1.1.1 広さ・収納性															
1.1.2 高度情報通信設備対応															
1.2.1 広さ感・景観															
1.2.2 リフレッシュスペース															
2.2.1 躯体材料の耐用年数															
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔															
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔															
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔															
3.1.1 階高のゆとり															
3.1.2 空間の形状・自由さ															
3.2 荷重のゆとり															
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出															
3.2 敷地内温熱環境の向上															
LR1 エネルギー															
1 建物外皮の熱負荷抑制															
2 自然エネルギー利用(直接利用)															
3 設備システムの高効率化															
非住宅部分															
集合住宅															
LR2 資源・マテリアル															
1.2.1 雨水利用システム導入の有無															
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用															
2.5 持続可能な森林から産出された木材															
3.2.1 消火剤															
3.2.2 発泡剤(断熱材等)															
3.2.3 冷媒															
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善															
見付面積比 78% 隣棟間隔指標Rw 0.98															
地表面対策面積率 10.0% 屋根面対策面積率 #DIV/0! 外壁面対策面積率 #DIV/0!															
見付面積Sb 2.674㎡ 卓越風向と直交する最大敷地幅Ws 118.55 m 基準高さHb 28.565 m															
緑地 2.279㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡															